

せんだん

第52号 発行

豊橋市立賀茂小学校

〒441-1101

豊橋市賀茂町字森信24番地

☎ (0532) 88-0400



稲刈り



マラソン記録会



もちつき



ひとのわ集会



親ガモ こがも 教頭 大森 征次

ひと昔前、カルガモ親子の引越しがメディアを賑わせていました。五月から六月に、成長する子ガモのために、オフィス街の人工池から皇居の池に移動する様子は、初夏の風物詩となりました。交通量の多い道路を、親ガモが子ガモたちを引き連れて渡るとき、警察は交通整理を行い、少し離れた所から観衆は子ガモたちの無事を祈りながらあたたかく見守っていました。最後の子ガモが高い堀から池に飛び込むと、観衆は笑顔で拍手を送っていました。

賀茂小学校には「親ガモの会」があります。平成十七年から二十年以上、田植えや稲刈り、賀茂つ子農園での学習など、さまざまな場面で近くから遠くから子どもたちを支え見守っていただいています。また「こがも学級」もあります。特別支援学級ができる際、当時の校長、小村先生によって名づけられました。あのカルガモ親子と警察や観衆の様子を想うと「いいな。素敵だな」と思いました。

今年度も「親ガモの会」のかたがたをはじめ、図書ボランティア、子ども見まもり隊や交通指導員のかたがた、クラブや生活科や総合的な学習の講師をしていただいたかた、そして保護者。地域の皆様にご支援いただきました。賀茂小六十二名の「こがも」たちはあたたかく見守っていただいた多くの「親ガモ」さんのおかげで、立派に成長しました。ありがとうございます。(互いに拍手です)

賀茂小学校は、来年度から「コミュニティ・スクール」となります。「地域とともにある学校」を目ざし、あの引越しをするカルガモのように、「こがも」たちにたくさん「親ガモ」さんからあたたかくご支援、ご指導していただきたいと願っています。学校を支えるパートナーである「親ガモさん」からご助言をいただき、「こがも」たちが安心して楽しく学校生活を送れるよう努めていきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

令和7年度

賀茂小学校の教育活動を振り返って

～自己評価・学校関係者評価から～

(一部抜粋)



賀茂小学校は、児童・保護者に対してアンケートを行ったり、学校評議員のみなさんにご意見をうかがったりして、令和7年度の教育活動を振り返りました。学校評議員会では、さまざまな視点・お立場から、ご指摘等をいただきました。これらの結果を生かして、来年度の取り組みに力を入れていきます。ホームページでも公開していますので、ご覧ください。

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
「わかる、楽しい授業」を基盤に、自ら学ぶ力の育成に努める。	学ぶ意欲の育成	「地域の人・もの・こと」を教材に取り入れ、問題解決の成就感を味わえるような問題解決学習の実践を充実させる。	A	A	生活科・総合的な学習を核として、地域のかたの協力の下。体験的な場を多く設定したことで、さまざまな事象を自分ごととして捉え学習を展開する子どもの姿が多く見られた。また、積極的なICT活用は視覚的に子どもたちの学びを支え、主体的に学ぶ子どもたちの姿が多く見られた。	どの学年も、校区の教材を積極的に子どもたちの学びに生かしている。コミュニティスクール導入で、地域とより連携しながら、賀茂の子と一緒に育ていきたい。	「田植え・どろ遊び」「校区合同防災訓練」など地域と連携する学習では、教育効果を高めるため、自ら課題をもって臨める学習が展開できるよう、地域教材の価値を地域と共有し単元を構想する。
	学び方の習得	発達段階に応じ、ICTの活用など自ら学ぶ力を支える学び方を身につけさせる。	B				
心豊かな子を育てる教育活動を推進する。	自己有用感の向上	子どもの居場所を確保し、認め合う場を大切に、周りから認められている自分を感じさせる。	A	A	学級活動や授業中、教員がファシリテーターとして子どもどうしをつなぎ、互いのよさを認め合う場面が多く見られた。縦割り活動も充実したものとなった。自らすすんで大人に挨拶する子が増えた一方、子どもどうしの挨拶にもの足りなさを感じる。	素直な子に育っている。表情よく挨拶ができる子が増えた。親が近くにいると声は小さいが、自分からすすんで挨拶する子が増えた。	子どもどうしの挨拶の輪を築きあげ、自己有用感が更に高まるよう、委員会活動を核に、学級活動を展開する。また、子どもの実態をふまえた道徳を展開し学習の充実を図る。
	生活習慣の基本挨拶意識の向上	「自分で 自分から」をキーワードに、子ども主体の挨拶運動を展開する。	B				
規則正しい生活習慣を養い、心身ともにたくましい子の育成に努める。	健康で丈夫な体作りへの意識の向上	自分の健康に関心を持ち、日常生活を振り返り改善できる子どもを育てる。	A	A	「メディアコントロール」を通して、ゲームやSNS使用のきまりを守ろうとする子が増えた。学校保健委員会での睡眠の質に迫ったことも、自分の健康に関心をもつきっかけとなった。縄跳びは「賀茂っ子ドリル」や「豊橋っ子フェスティバル」を通してすすんで取り組んでいた。	運動会、マラソン記録会で、一生懸命に競技する子どもたちの姿に好感をもった。基本的な生活習慣と体力の育成について、これからは家庭と連携して取り組んでほしい。	次年度も、子どもたちの状況を把握し自分の健康や生活の質への意識を高める仕掛けをしていく。本校の強みである縄跳びに意欲的に取り組む風土を生かし、体力の育成を家庭と連携して図る。
	バランスのとれた基本的な体力の育成	縄跳び活動「賀茂っ子ドリル」などの総合的な体力向上を目指す活動を、年間を通して取り組む。	A				
安心して学ぶことができる学校づくりを推進する。	職員の安全に対する意識の向上	「安全が最優先」を肝に銘じ、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの視点から、安全管理体制を充実させる。	A	A	さまざまな状況下での避難訓練を設定し、全体の動きを確認したことで、教員も子どもたちも当事者意識をもった臨場感のある避難訓練となった。子どもたちの様子や連絡事項は、メールを通してタイムリーに保護者や地域に発信した。	「予告なし」の避難訓練の様子を参観した。教員の動きが的確で、連携がとれていた。来年度、校区と協働した防災訓練を実現させたい。	子どもたちだけでなく、職員も安全に対する意識向上と具体的な対応スキル習得をねらいとし「校区合同防災訓練」を実施する。互いに顔の見える関係を構築し地域との安全管理体制を充実させる。
	地域・家庭との連携の充実	ホームページ・学校だより・メール配信等により、学校の様子や経営方針を発信する。	B				
教職員一人一人の力量を高め、働き方改革を推進する。	教育公務員としての意識の向上	教科・領域等での学びを支える教師の力量向上と、教育公務員としての資質・能力の向上を目指す。	A	A	授業研究会を繰り返し行い互いに授業を見せ合ったことで、授業づくりと子どもたちの考えを広め深めるスキルを身につけることができた。校務DX化を推進し、お便りのメール配信一本化により、業務量縮減を実現させた。	教員が楽しくわかる授業をしていこうと尽力する姿勢が見られる。信頼できる教員集団をこれからも築いてほしい。	次年度も授業研究会を通して授業力を互いに高め合っていく。新タブレットや新アプリの有効活用法を追求し、子どもたちがより「わかる・できる」を実感できるよう力量向上を図っていく。
	教職員の多忙化削減	全職員協働での教育活動の推進、タイムマネジメント能力の向上を目指す。	A				

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

